



学校だより

5月号
令和4年4月29日発行
横浜市立磯子小学校

えがお かがやき 磯子小

1枚の写真

校長 宮島 章

桜の咲いていた入学式・始業式から、気が付けば若葉がまぶしい季節になり、風薫る五月を迎えました。

一学年ずつ進級した子どもたち一人一人が、新しい目標をもって挑戦している姿がたくさん見られた一か月でした。進級した子どもたちの意欲をこれからも大切にしながら、様々なことに挑戦して行ってほしいと思っています。

さて、4月末からゴールデンウィークを迎えます。子どもたちにとっては、進級による様々な環境の変化や年度当初特有の諸行事等で、心身ともにストレスが溜まったり、疲れが出たりする時期ですので、少し一息ついてリフレッシュをしてもらえたらと思います。

話は変わりますが、以前、「大正12年3月尋常高等磯子小学校卒業生」という1枚の写真を校長室の棚で見つけました。ラミネート加工されている写真なので、何かの展示に使われた物かもしれないのですが、私自身その写真を時々眺めては本校の歴史に思いを馳せることがあります。大正12年の卒業生ということなので、ご存命なら111歳になる当時の小学生は、ほとんどの児童が着物姿で写っています。ここに写っている子どもたち一人一人は、その後どんな人生を送ったのでしょうか。卒業した大正12年の9月には関東大震災が起これ、その後も日中戦争や太平洋戦争も経験されたことを考えると、一言では語りつくせないほどのご苦労が多かったのではないのでしょうか。また今を生きる私たちにとっても、自然災害を防ぐことは難しい事ですが、現代でも戦争が起こりうることを考えると、時代は変わっても、残念ながら人間はあまり進歩していないようにも思います。

本号の中でも紹介していますが、ゴールデンウィーク中の5月4日は、磯子小学校の149年目の開校記念日になります。同じ年数を数える小学校は、区内では磯子小学校、根岸小学校、杉田小学校の三校になります。明治6年の創立ですから、前年の明治政府による学制発布を考えると、日本に学校制度が誕生して間もない学校ということになり、本当に長い歴史を経てきた学校といえます。校長室にある1枚の写真は、本校の長い歴史のほんの一コマですが、この地域で生まれ育った子どもたちが、149年間もの長い間、この磯子小学校での学びを日々続けてきたことに深い感銘を覚えます。

学校では来年の150周年に向け、少しずつ準備を始めているところです。まだこの学校も150周年を迎えたことはないのですが、どんな150周年にするか子どもたちと一緒に考えながら進めていきたいと思っています。保護者・地域の皆様からも、150周年に向けたアイデアがあれば是非お寄せいただければ幸いです。